

## 支援につながる検査結果の効果的なフィードバックについて

企画・司会者	星井純子（大田区教育委員会 発達障害支援アドバイザー）
話題提供者	熊上 崇（立教大学コミュニティ福祉学部）
話題提供者	吉村亜紀（世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」）
話題提供者	坂内 仁（北海道教育庁胆振教育局 特別支援教育スーパーバイザー）
指定討論者	東原文子（聖徳大学児童学部）

KEY WORDS: KABC-II, フィードバック, アドバイスシート

### 【企画趣旨】

近年支援を必要としている子供たちが心理検査を受検する機会が増えている。検査結果は実態把握の中でも重要な位置を占めており、検査実施・報告者はその他の収集した必要な情報とともに総合的に解釈し、支援方針を検討するため、日々努力している。検査結果を専門家同士での検討の場で生かすことは既に行われてきたが、保護者や在籍学校の担任、さらに子供たちなど、検査の非専門家のための分かりやすく、活用できるようなフィードバック方法についての研究は少ない。（小倉 2007）

本シンポジウムでは、保護者や在籍校担任が具体的に支援のイメージができるフィードバック、さらに当事者の肯定的な自己理解につながるフィードバックのあり方について、実践事例をもとに議論する。

### 【話題提供者の趣旨】

#### 心理検査結果を子どもや保護者に説明するための「学習アドバイスシート」の作成（熊上崇）

熊上（2015）は、公立高校1年生29人に日本版KABC-IIを実施した。KABC-IIはわが国で初めての個別式の認知・習得検査であるが、検査結果を学校の教員だけでなく、生徒に説明するよう依頼された。そこで、生徒自身が、検査結果を理解し、自己の認知特性を理解し、学習習得の状況を知って今後の学習への意欲を高めるために、「学習アドバイスシート」を作成した。

フィードバックにあたっては、この「学習アドバイスシート」を用いて、生徒に説明したところ、「自分の特徴が分かった」などという感想があった。また、実際に指導を行う教員からも、生徒の特徴が理解できたとの感想があった。

そもそも、心理検査結果は誰のものであろうか？専門家や支援者だけのものではなく、子どもや保護者のものでもあり、支援者と検査結果を共有して、子ども（保護者）が、自己の特性を理解し、学習面や行動面への意欲を高めるものにする必要があると考える。

#### 知的障害特別支援学校高等部における検査結果のフィードバック（坂内 仁）

知的障害特別支援学校高等部に在籍し、企業就労を目指す第2学年の生徒に対して心理検査（WISC-IVとKABC-II）を実施した。両検査の指標・尺度の中で高い得点に着目し、働く際の4場面（指示を理解する・メモする・やり方を考える・実際に作業する）における長所活用の方法について、イラストと簡潔な文章で構成した「就労アドバイスシート」を作成し、担任教諭へフィードバックを行った。また同アドバイスシートを用いて担任教諭が生徒へフィードバックを行った。フィードバック2ヵ月後に生徒及び担任教諭へアンケートを実施した結果、生徒からは「自分の強みが分かった」「結果を実習に生かしてみたい」、担任教諭

からは「実習や授業での支援の仕方を工夫できた」「（生徒が）自分の良さや強い能力を知り、自信につながった」などの意見が得られた。以上の結果から、「就労アドバイスシート」を活用した心理検査のフィードバックは、知的障害特別支援学校に在籍する生徒にとって自己の強みが分かり自信につながる、教諭にとって生徒の強みを生かした指導・支援に生かすことのできる取組であったことが示唆された。今後の課題として、本アドバイスシートについて教諭及び生徒が振り返る機会を設定すること、個別の教育支援計画（移行支援計画）へ位置づけ就労先の企業との情報共有を行うこと、などが挙げられる。

#### 幼児期・学齢期の保護者への検査のフィードバックについて-検査報告者へのアンケート調査から-（吉村亜紀）

認知発達検査を受ける経緯をみると、幼児や小学生の場合、保護者自身が相談機関を探して検査を求める場合もある。一方で悩みながらも、いざ相談機関へととなるとためらい、「そのうち変わる・・・」という気持ちから実態を受け入れる気持ちに変わってから初めて相談機関を訪れ検査を受ける場合もある。また幼稚園や学校の担任の勧めに逡巡しながらも相談や検査を受けることになる場合もあり、一様ではない。しかしどの保護者も検査について非常に期待と不安をもっていることには変わりはない。そのように不安な思いを抱えて検査結果を聞きに来る保護者に対して、検査者（または評価者）は、検査結果をわかりやすく説明する責任があるため、数値、所見について、どのようなフィードバックが適切なのかを考える必要がある。今回、通級指導教室、および教育センターの担当者に実施した調査を基に、保護者へのフィードバックに於ける配慮事項について検討したい。

#### 【指定討論者の趣旨】

##### （東原文子）

これまで、日本版 K-ABC や KABC-II、及び他の検査によるアセスメント結果を伝える者として対象児の認知特性に関し非専門家との情報の共有をしてきた。20年余の実践の視点と、CHCモデル、クラスター分析など新たな検査結果の整理のしかたの研究の視点の両方から、話題提供者との議論を展開する。

#### （文献）

藤田,石隈,青山,服部,小野(2014)エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点,丸善出版  
熊上崇ほか(2015)「公立高校1年生の数学習熟度別クラスにおけるKABC-IIの実施とフィードバック」K-ABCアセスメント研究, 17, 23-32, 2015.

(HOSHII Junko, KUMAGAMI Takashi, YOSHIMURA Aki, BANNAI Hitoshi, HIGASHIBARA Fumiko)